

公益社団法人日本口腔インプラント学会は 第 53 回学術大会において以下を宣言します

公益社団法人日本口腔インプラント学会 理事長 細川隆司
第 53 回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会 大会長 横山敦郎

国民から信頼される口腔インプラント治療で QOL の向上に貢献します

SAPPORO 宣言 2023

2023 年 5 月 5 日に WHO (世界保健機関) は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて発出している「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言を終了すると発表しました。我が国においても 5 月 8 日に感染症法上の位置付けを季節性インフルエンザと同じ「5 類」に移行しました。決して新型コロナウイルス感染症が脅威ではなくなったということではありませんが、感染者数が少しずつ減少していることは事実であり、2020 年 3 月からのコロナ禍において様々に制限を受けていた私たちの生活が明るい良い方向に向かって行くことが期待されます。

私たち歯科医師が日常的に行う口腔ケアは、口腔内細菌叢、口腔粘膜、唾液の分泌等を保持することにより、口腔の感染防御機構を維持し、COVID-19 の感染リスクの低下ならびに重症化の抑制に寄与していると考えられます。コロナ禍が終息しつつある現在、口腔ケアとともに歯科の大きな使命である口腔機能の回復による「QOL (生活の質) の向上」が期待されています。「オーラルフレイル (口の機能低下) は、フレイル (体の衰え)、サルコペニア (筋力の低下)、要介護のリスクを高める」ことが報告されていますが、「嚙む力を維持することが、フレイル発症を抑制できる」というエビデンスも徐々に得られてきています。さらには、多くの臨床研究により、口腔インプラント治療が咀嚼等の口腔機能を回復し、QOL を向上することも明らかになっています。

日本口腔インプラント学会は、日本歯科専門医機構により認証される新しい専門医制度を早急に導入し、国民から信頼される口腔インプラント治療による口腔機能回復を通じて QOL 向上をはかり、健康長寿社会の実現に貢献することをここに宣言いたします。